



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 妹が夫に暴力を振るわれていることで相談に来た女性

**主訴：**妹の夫が家庭で暴力をふるい、精神的・身体的に傷つけられている。妹を救ってやりたいがどうしたらよいか分からない。

**問題状況：**ある技術系の会社に勤める女性（39歳）が、自分の妹が夫に家庭で暴力をふるわれていると訴えて来談。妹の夫は、この人（姉）と同じ会社の、同じ職場のエンジニア（44歳）。いつも顔を合わせている同僚である。この女性の妹（36歳）は、4年前にこの夫と結婚紹介会社を通じて見合い結婚をした。どちらも「適齢期」を過ぎていたので、「この辺で手を打とうかな」という感じで結婚したという。妹は、以前OLをやっていたが、結婚を機に退職。専業主婦をしながら近所の自動車販売ディーラーでパートをしている。結婚半年後に妊娠したが流産。流産したあたりから夫が暴力を振るうようになった。夫は、会社の仕事がうまくいかなかったり、会社で上役に注意されると、家に帰って来た後、妹に殴る蹴るの暴力をふるう。理由は些細なことで、お風呂に石鹸が入っていなかった、食事の用意が遅かったなど、である。機嫌のよいときは陽気に鼻歌など歌うが、機嫌が悪いと些細なことをあげつらって殴ったり蹴ったりしてくる。妹は、何度か誰かに相談しようと考えたが、相談したことが夫に分かると殴り殺されかねないという恐怖心から誰にも相談してこなかった。姉が、妹の家をひょっこり訪ねた時、部屋が散らかっている、妹の顔や手足に青あざがある、などの様子を発見。妹を問いただしたところ、日常的に夫に暴力をふるわれていることが分かった。

**夫の性格：**高専卒業後、ずっと同じ会社でエンジニアをやってきた。人前では、無口、実直、小心、自己主張しない、など「大人しくて、まじめな性格」と映っている。仕事は堅実。人づき合いが悪いが、エンジニアにはよくあるタイプである。若いときは仕事が忙しく、会社と寮とを往復して、ずっと夜9時、10時まで仕事をしてきた。時間的な余裕がなかったことと、はにかみ屋で、女性と交際する機会がほとんどなく40歳まで独身だった。

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールの渡辺直登教授が作成した。ケースに記載されている個人情報については、本人および関係者の尊厳と秘密を保護するため、当事者の了解のもと事実から逸脱しない程度に偽装されている。

**妹の性格：**高校卒業後、繊維関係の卸会社に就職。14年間事務関係のOLをやってきた。目立たない、まじめな性格。仕事をきちんとするタイプ。我慢強く、何事も自分のせいにするので苦勞を抱え込みやすい。あまり自己主張せずに、周囲との融和に気を使う。母性が強く、夫に尽くす人。趣味は手芸、洋裁。

**出来事：**暴力を振るい始めた前後から会社のリストラが始まり、夫は何度も出向・転籍の危機を乗り越えてきた。エンジニアとしても技術の陳腐化の時期を迎え、管理の仕事をするか、子会社出向（あるいは転籍）、のどちらかしか選択肢がなくなってきた。同期の同じ高専卒の同僚が管理職に昇進したのがショックで、2、3日家で「ふて寝」をしていた時、妹（妻）の体液のついた下着を口でしゃぶりながら、「ボクちゃん、寝んねなの」「おしっこチーするよ」と言って、布団の上で「おもらし」をした。妹があわてて始末をしていると、後ろからはがいじめにして「ボクちゃんのこと好き？」と何度も聞く。妹が嫌がると、一転して「俺がリストラされるのは、お前がだらしないからだ」と叫んで身体中がミミズ腫れになるほどの暴力を振るった。妹は、殺されるかと思った。

---

不 許 複 製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

Contents Works Inc.